

◆『Intelligence』購読会員の皆さまへ：ニュースレターNo.4（2012年9月号）◆

夏の暑さがまだ続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。購読会員の皆さま限定の、ニュースレターも四号となりました。「Intelligence」会員専用ウェブサイトとあわせてご覧いただければ幸いです。皆さまからのご意見、ご要望をお待ちしております。

【7月研究会の概要：第69回】（7月28日午後2時半～5時半）司会：土屋礼子

・及川淳子「1980年代の中国における報道の自由－「新聞法」制定をめぐる議論を中心に」：及川さんは、博士論文をまとめた『現代中国の言論空間と政治文化－「李鋭ネットワーク」の形成と変容』を出版されたばかりの新進気鋭の研究者で、李鋭をはじめとする共産党の老幹部への聞き取り調査をもとに、1980年代に重ねられた「新聞法」制定に関する議論の経緯とその要点を紹介してくださいました。

・宮杉浩泰「米国・メキシコにおける日本の情報活動構想とその帰結－1941年を中心として」：宮杉さんは、外務省調査部第六課の原田正行の活動に着目し、中南米における日本の情報活動を、外務省の「情報啓発費」と称する活動費用や海軍からの支援について資料を用いて明らかにしながら、論じてくださいました。

・米濱泰英「米ソ提携を日本軍はどこまでキャッチしていたか－第二次大戦勃発からソ連の満州侵攻まで」：米濱さんは、近著『ソ連はなぜ八月九日に参戦したか』（オーラルヒストリー企画刊）に基づいて、ソ連の満州侵攻の背景にあったアメリカの対ソ支援の実情とそれに対する日本軍の対応について明らかにしてくださいました。

また会の最後には、山本武利先生から占領期新聞・雑誌記事情報データベースについて、新聞情報の入力作業が2012年3月に完成したこと、2013年4月からは早稲田大学現代政治経済研究所を窓口の有料で公開される予定であることが報告されました。

※なお、研究会当日に配布されたレジュメは、会員ホームページにアップされています。

<http://www.bunsei.co.jp/ja/intelligenceuser.html>

（閲覧は『Intelligence』の購読会員に限定されています。）

●次回9月の研究会は、9月29日（土曜日）午後3時から、加藤哲郎、石川巧の二氏にご報告頂く予定です。10月・11月の研究会の日程は、あらためてお知らせいたします。また、ご報告御希望の方は、20世紀メディア研究所事務所までご一報下さい。  
[m20th@list.waseda.jp](mailto:m20th@list.waseda.jp)

#### 【気になる新著や記事の紹介】[敬称略]

「雑誌進むデータベース化」（『日本経済新聞』9月1日）で、20世紀メディア研究所の新聞雑誌データベースが言及された。加藤哲郎が資料を発掘した小野寺武官の密約電報に関する記事が『産経新聞』（8月8日）に掲載された。また、山本武利が発見した陸軍中野学校の資料が、新聞記事に続き『週刊朝日』（8月17日）でも取り上げられた。同氏は『毎日新聞』（9月18日）の特集「満州事変から81年」で戦時報道に関するコメントを寄せた。川崎賢子の赤坂真理『東京プリズン』の書評が『週刊現代』（8月13日）に掲載された。有馬哲夫『原発と原爆』（文春新書）は、副題にあるように「日・米・英の核武装の暗闘」を機密文書によって明かそうとする。また、Trahair and Miller, *Encyclopedia of Cold War Espionage, Spies, and Secret Operations*, Enigma Books の第三版が刊行された。

#### 【今月のコラムーワシントンDCだより】

何年かぶりにワシントンDCのNewseum（ニュージアム）に行ってきた。ご存知のように米国のジャーナリズム団体・企業により開設された「ニュースの博物館」。日本関連では在米日系紙、JOAKのマイクとアイバ・トグリの写真、昨年の中日本大震災の時に作成された『石巻日日新聞』の壁新聞（実物）の展示が見逃せないが、インテリジェンス関係では「FBIとジャーナリズム」というコーナーの展示が興味深い。禁酒時代のギャング、カルト集団、9/11までのテロリズムなどに関する報道とFBIの捜査資料が合わせて展示されている。大衆文化におけるFBIのイメージを示す映画や漫画、グッズなどの展示も面白い。ワシントンDC滞在の折には一見の価値あり。

[9月19日付文責：土屋礼子]